

# 男女共同参画に関する市職員 アンケート調査報告書 概要版

## 調査の概要

### 1 調査目的

男女共同参画に関する市職員の意識、意見及び要望を集約、解析することにより、鎌ケ谷市の現状、課題を把握し、次期男女共同参画計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査の方法

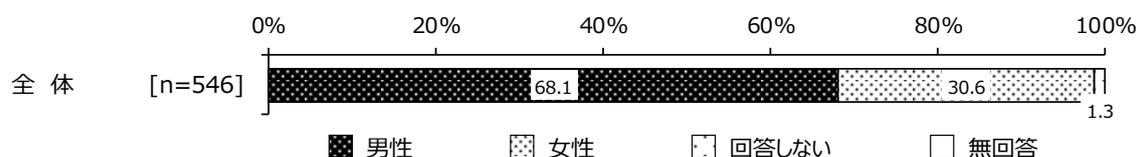
- (1) 調査対象 鎌ケ谷市常勤職員 769人
- (2) 調査方法 配布（インターネット上のアンケートフォーム（Logo フォーム）の公開）
- (3) 調査実施時期 令和7年8月15日（金）～9月16日（火）
- (4) 回収結果 総回収数 546件 有効回収数 546件  
有効回収率 71.0%（前回82.5%）

### 3 概要版を読む際の注意点

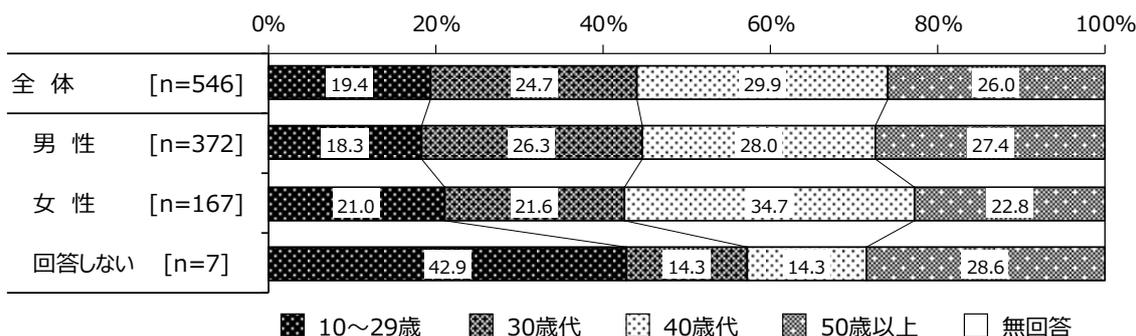
- ・ 前回調査は令和元年8月～9月に実施しており、すべて「前回」と表記する。
- ・ 集計は小数点第2位を四捨五入した。したがって、数値の合計が100.0%にならないことがある。
- ・ 2つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、数値の合計が100.0%を上回ることがある。
- ・ 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化してある。
- ・ クロス分析の各属性の回答者数の合計は、「無回答」があるため、全回答者数とは一致しない。

## 回答者の属性

### 1 性別



### 2 年齢

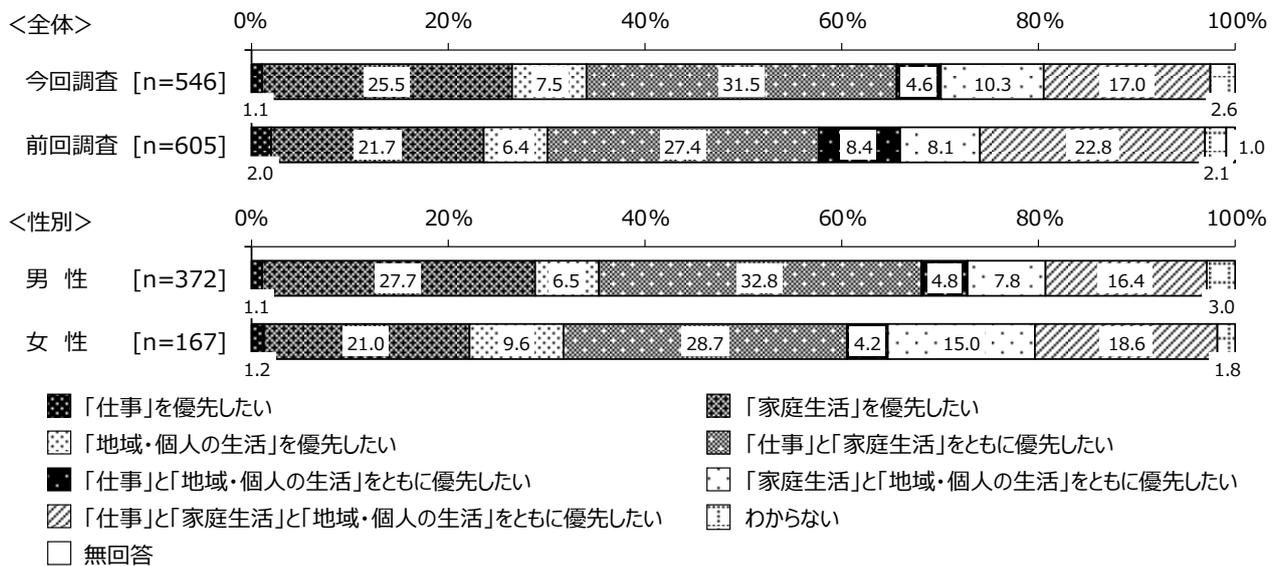


# I 仕事と家庭の両立について

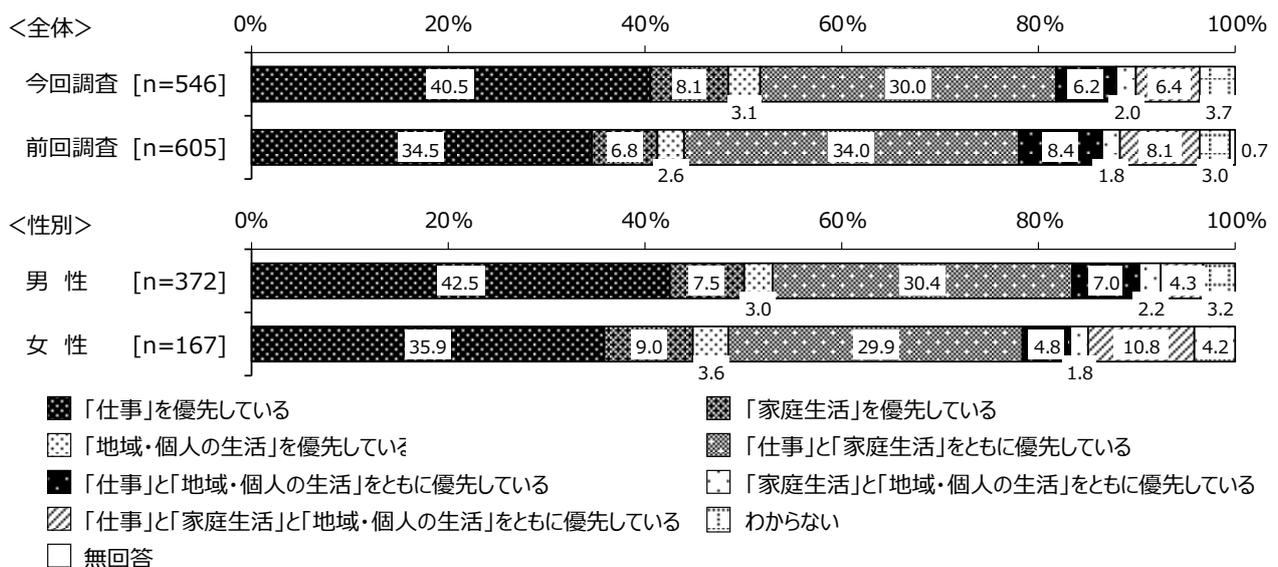
## 1 仕事と自分の生活のバランスについて

- 希望（重視したいもの）については、前回に比べ『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』（31.5%）は 4.1 ポイント、『「家庭生活」を優先したい』（25.5%）は 3.8 ポイント高く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』（17.0%）は 5.8 ポイント低くなっている。
- 現実については、前回に比べ『「仕事」を優先している』（40.5%）は 6.0 ポイント高く、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』（30.0%）は 4.0 ポイント低くなっている。
- 希望と現実の差については、『「仕事」を優先』は現実（40.5%）が希望（1.1%）より 39.4 ポイント高くなっている。

### （1）希望（重視したいもの）

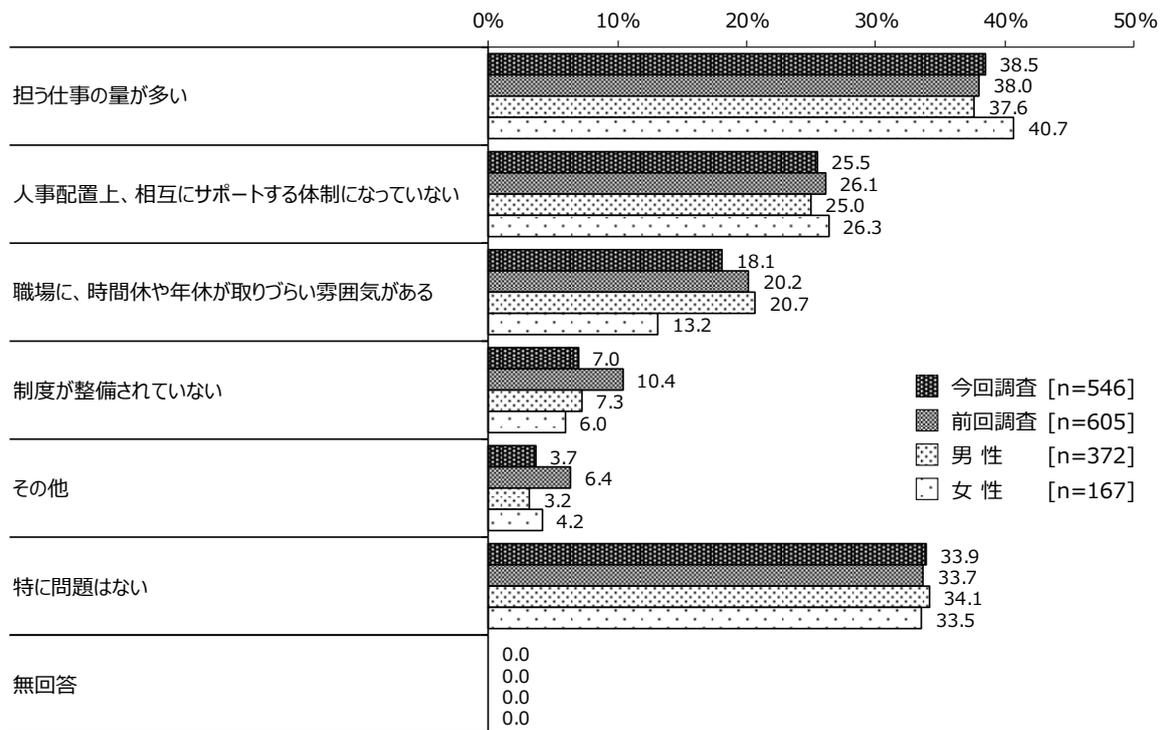


### （2）現実



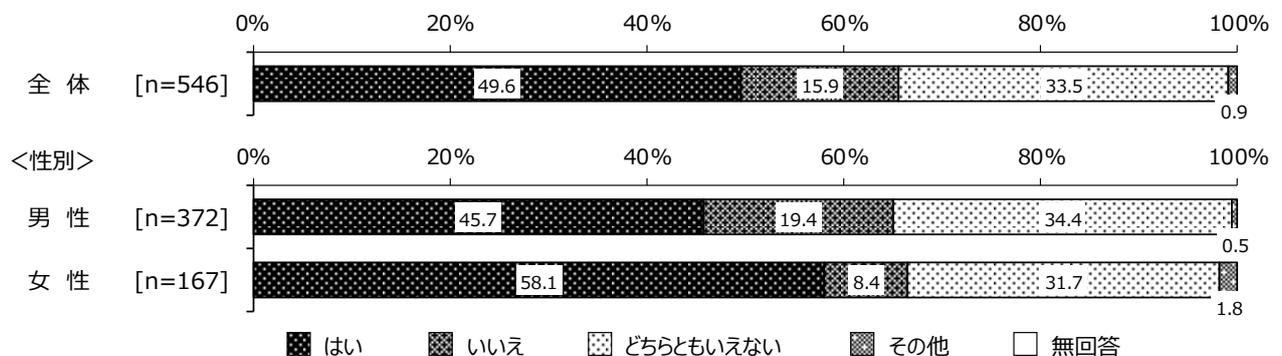
## 2 仕事と家庭生活を両立しようとするうえでの職場の問題

- 職場での問題点は、「担う仕事の量が多い」が 38.5%で最も高く、次いで「人事配置上、相互にサポートする体制になっていない」が 25.5%となっている。
- 前回と比較すると、「制度が整備されていない」は 3.4 ポイント減少している。
- 性別にみると、「職場に、時間休や年休が取りづらい雰囲気がある」は男性（20.7%）が女性（13.2%）より 7.5 ポイント高く、「担う仕事の量が多い」は女性（40.7%）が男性（37.6%）より 3.1 ポイント高くなっている。



## 3 育児休業の取得環境

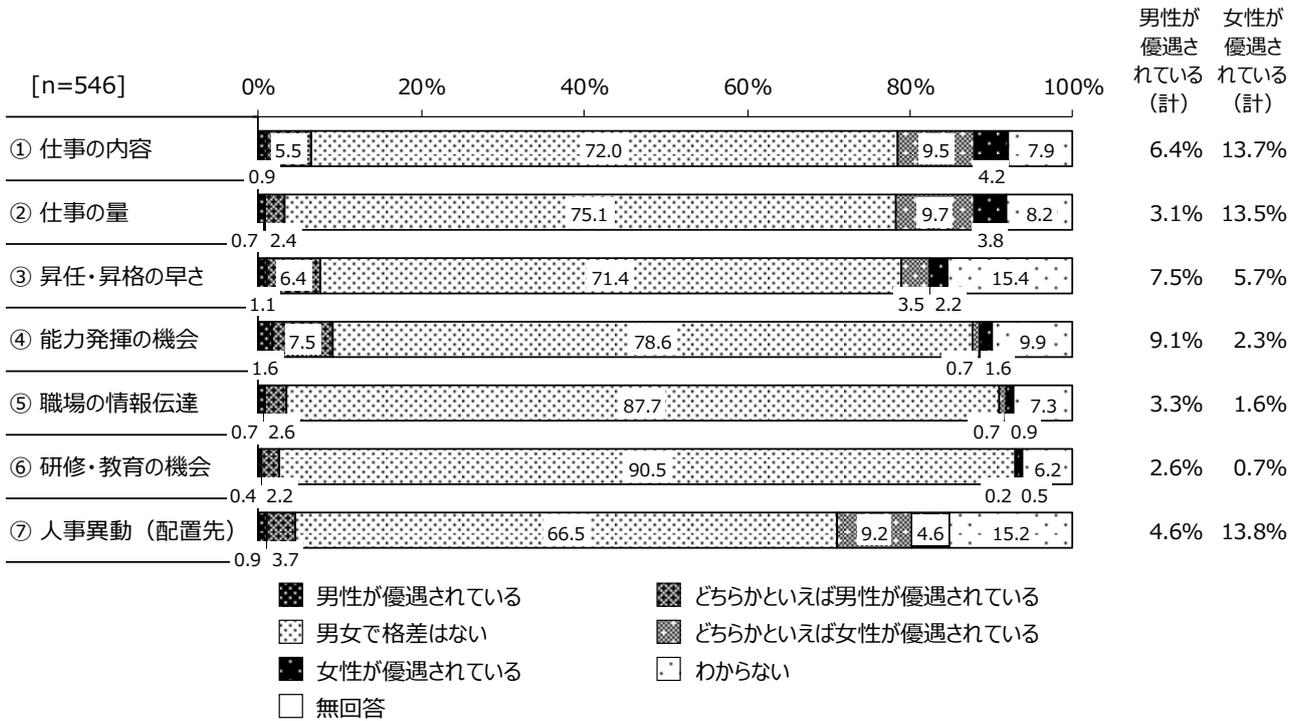
- 育児休業が取得しやすい環境であると思うかについては、「はい」が 49.6%、「いいえ」が 15.9%、「どちらともいえない」が 33.5%となっている。
- 性別にみると、「はい」は女性（58.1%）が男性（45.7%）より 12.4 ポイント高くなっている。



## Ⅱ 職場における男女共同参画について

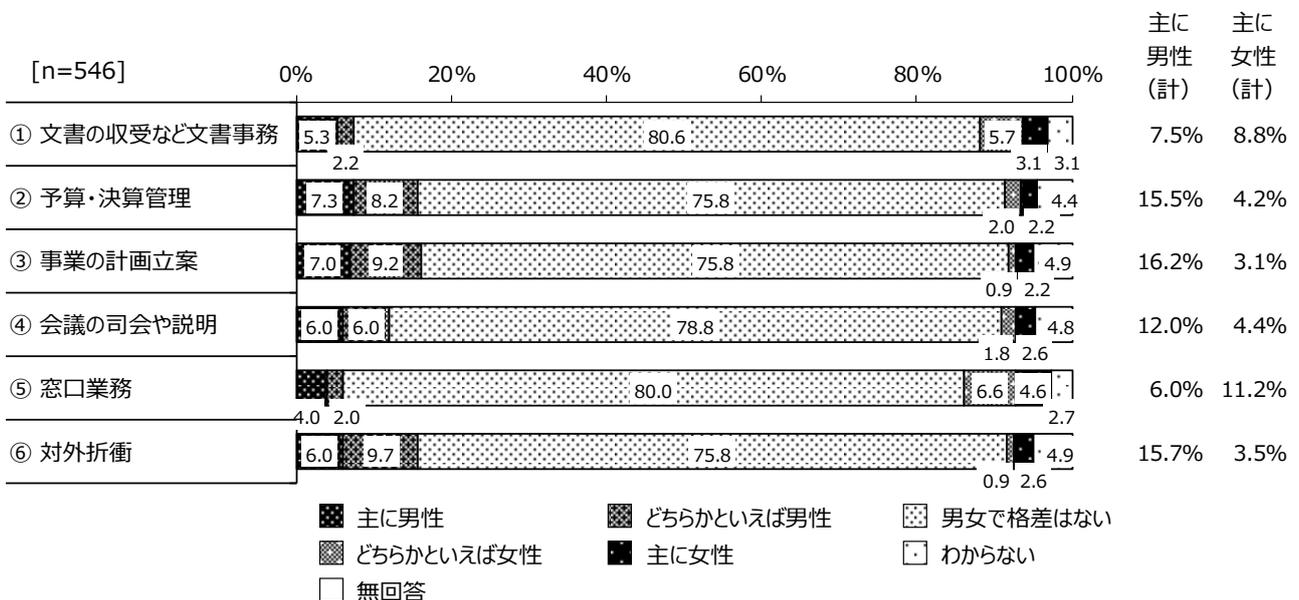
### 1 職場における性別の違いの有無

- すべての項目で「男女で格差はない」が6割を超えている。
- 「男性が優遇されている（計）」は、『能力発揮の機会』が9.1%、「女性が優遇されている（計）」は『人事異動（配置先）』が13.8%、『仕事の内容』が13.7%、『仕事の量』が13.5%で、他の項目と比べて高くなっている。



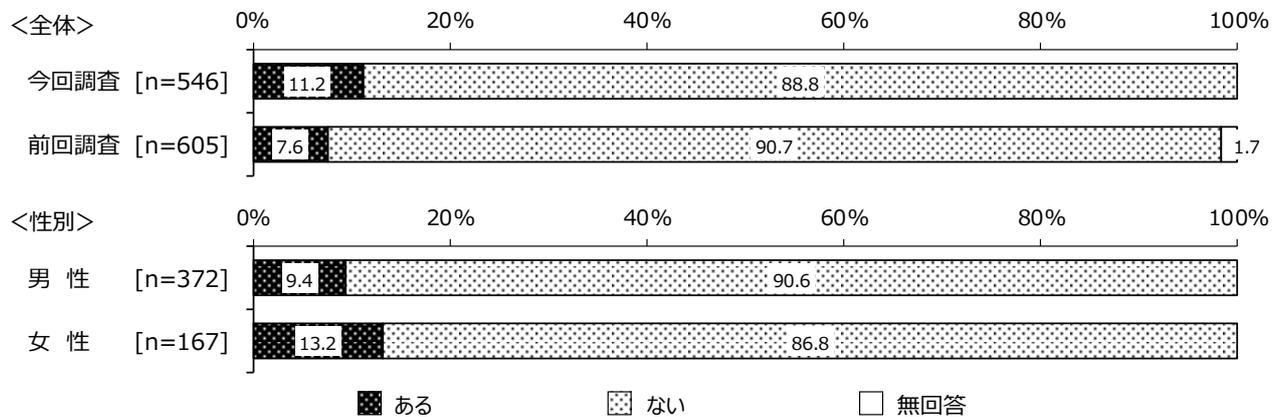
### 2 職場での仕事の分担

- すべての項目で「男女で格差はない」が7割を超えている。
- 「主に男性（計）」は、『事業の計画立案』が16.2%、「主に女性（計）」は『窓口業務』が11.2%で、他の項目と比べて高くなっている。



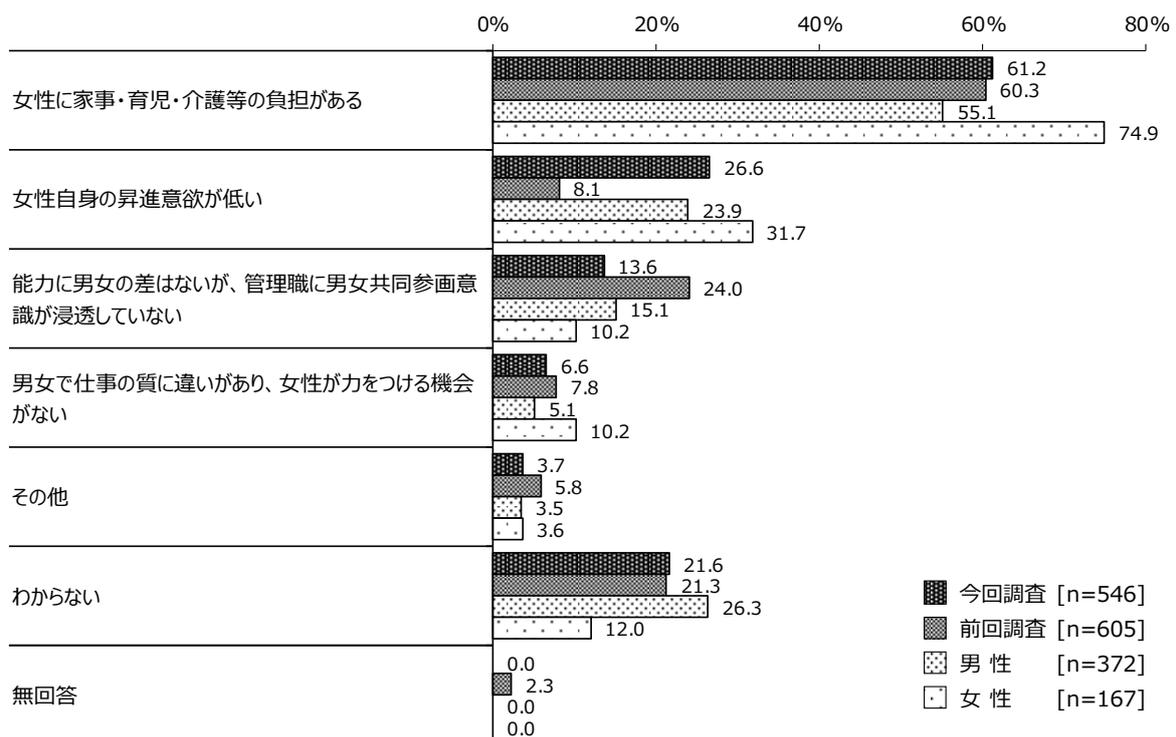
### 3 職場で不利益な扱いを受けたり、不愉快な思いをした経験の有無

- 職場で不利益な扱いを受けたり、不愉快な思いをした経験については、前回に比べ「ある」(11.2%)が 3.6 ポイント高くなっている。
- 性別にみると、「ある」は女性（13.2%）が男性（9.4%）より 3.8 ポイント高くなっている。



### 4 女性の管理職への登用を妨げているもの（2つまでの複数回答）

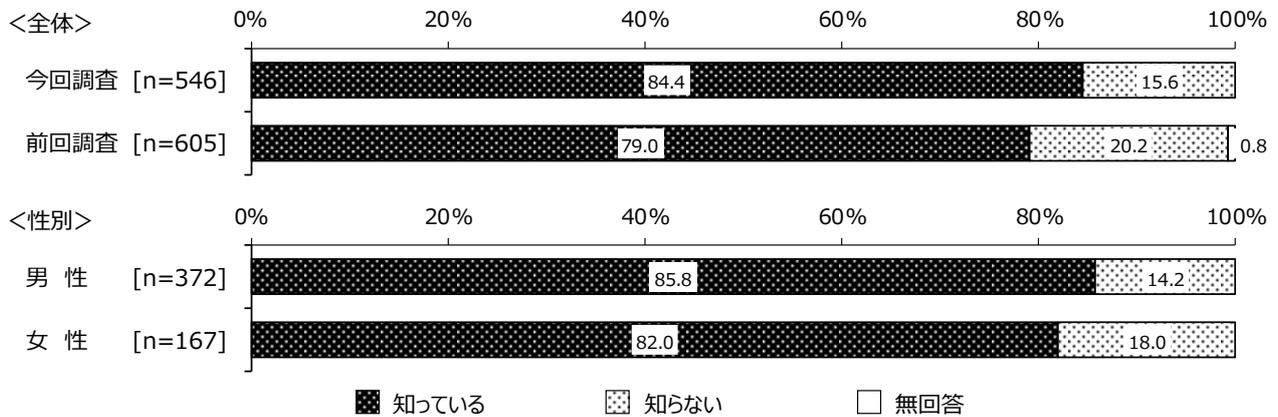
- 女性の管理職への登用を妨げているものについては、「女性に家事・育児・介護等の負担がある」が 61.2%で最も高くなっている。
- 前回と比較すると、「女性自身の昇進意欲が低い」が 18.5 ポイント増加する一方、「能力に男女の差はないが、管理職に男女共同参画意識が浸透していない」は 10.4 ポイント減少している。
- 性別にみると、「能力に男女の差はないが、管理職に男女共同参画意識が浸透していない」は男性（15.1%）が女性（10.2%）より 4.9 ポイント高くなっている。一方、「女性に家事・育児・介護等の負担がある」は女性（74.9%）が男性（55.1%）より 19.8 ポイント高く、他 2 項目も女性の方が 5 ポイント以上高くなっている。



### Ⅲ 職場におけるハラスメントについて

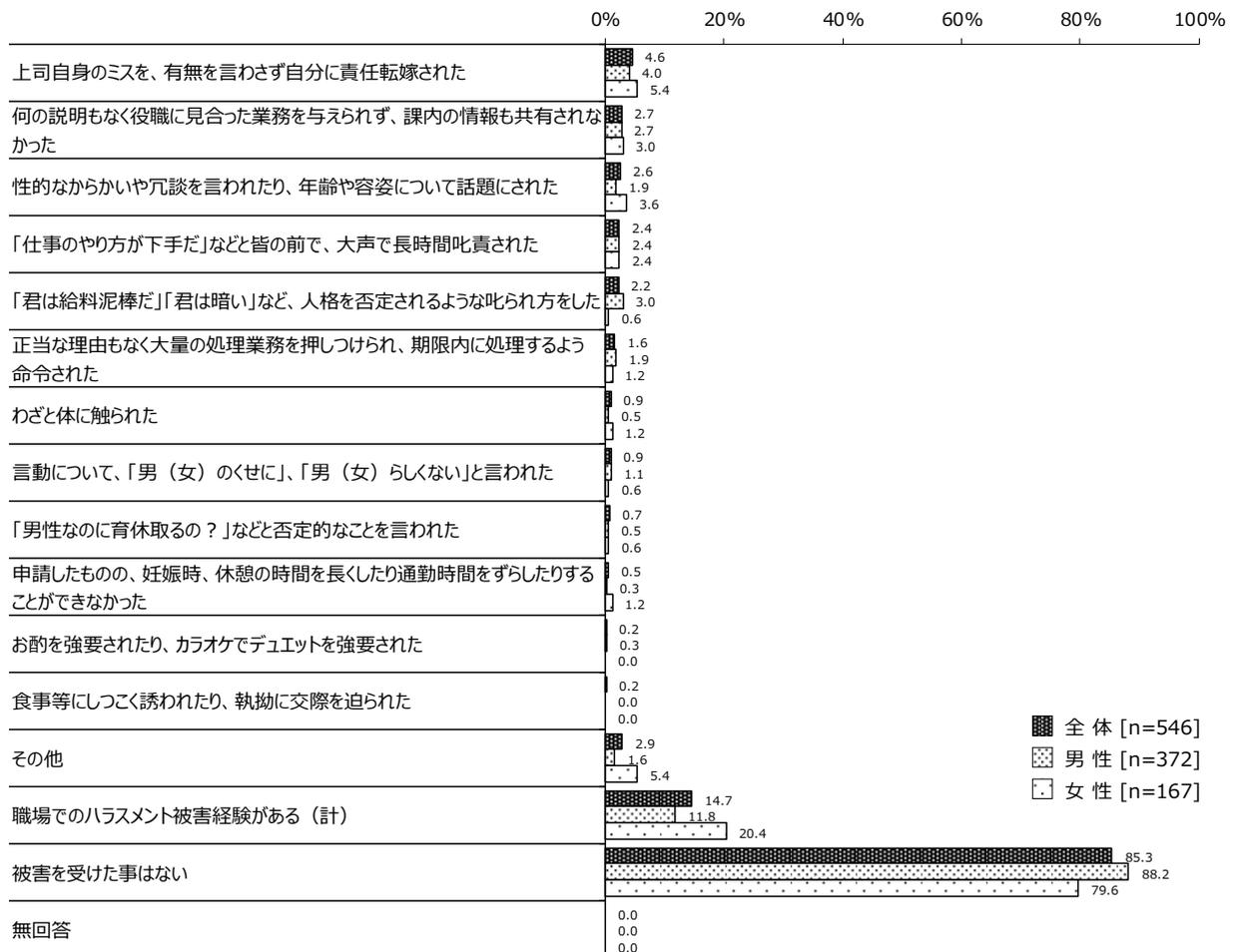
#### 1 市のハラスメント相談窓口の認知

- 市のハラスメント相談窓口の認知状況については、前回に比べ「知っている」(84.4%)が5.4ポイント高くなっている。
- 性別にみると、「知っている」は男性(85.8%)が女性(82.0%)より3.8ポイント高くなっている。



#### 2 職場でのハラスメント被害経験

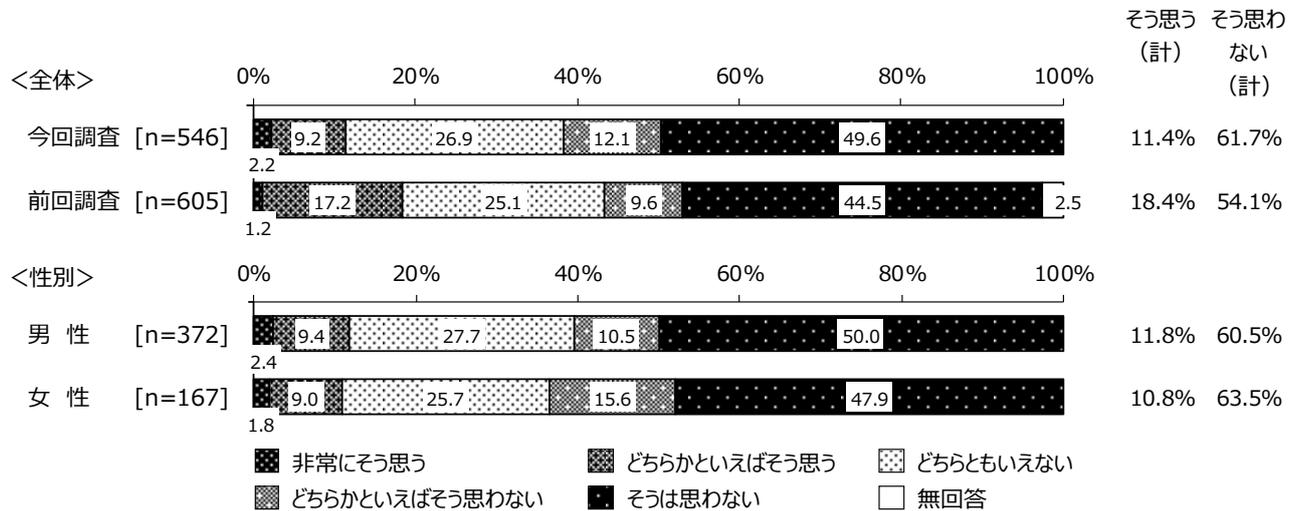
- 「職場でのハラスメント被害経験がある(計)」は14.7%となっている。
- 性別にみると、「職場でのハラスメント被害経験がある(計)」は女性(20.4%)が男性(11.8%)より8.6ポイント高くなっている。



## IV 男女共同参画に対する意識について

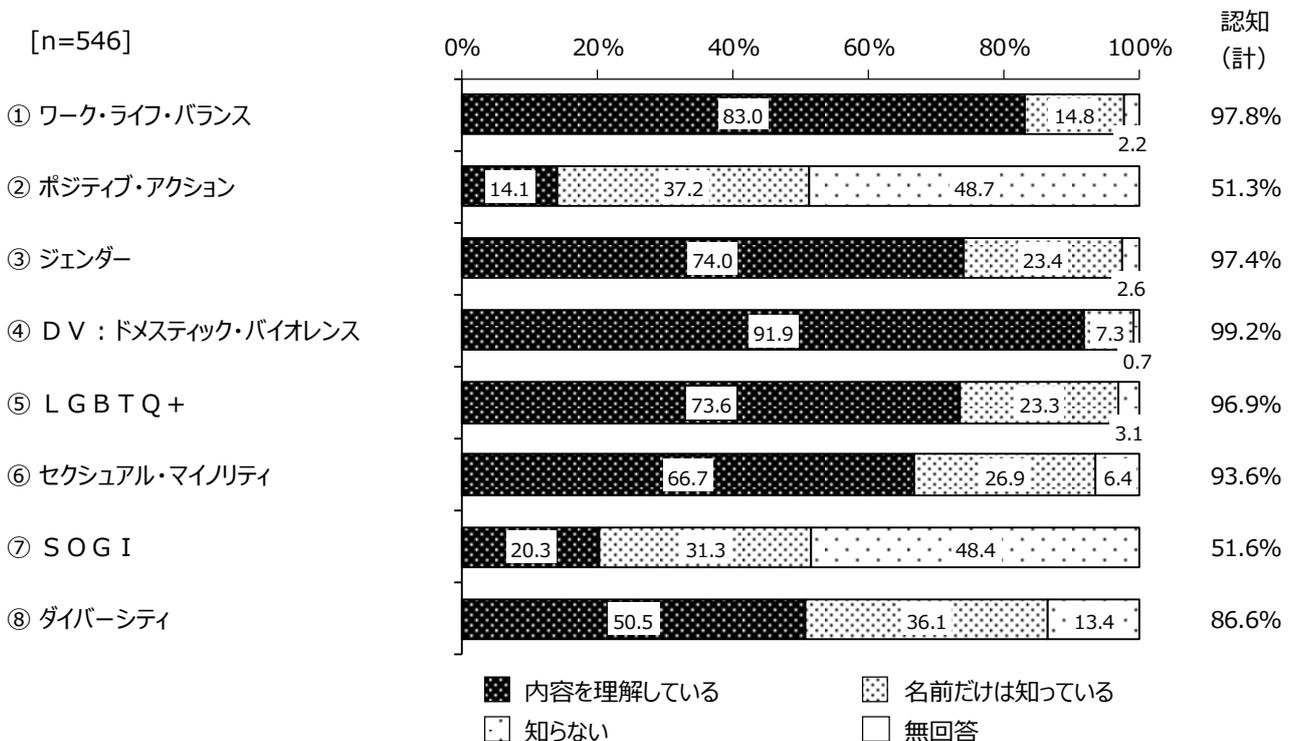
### 1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

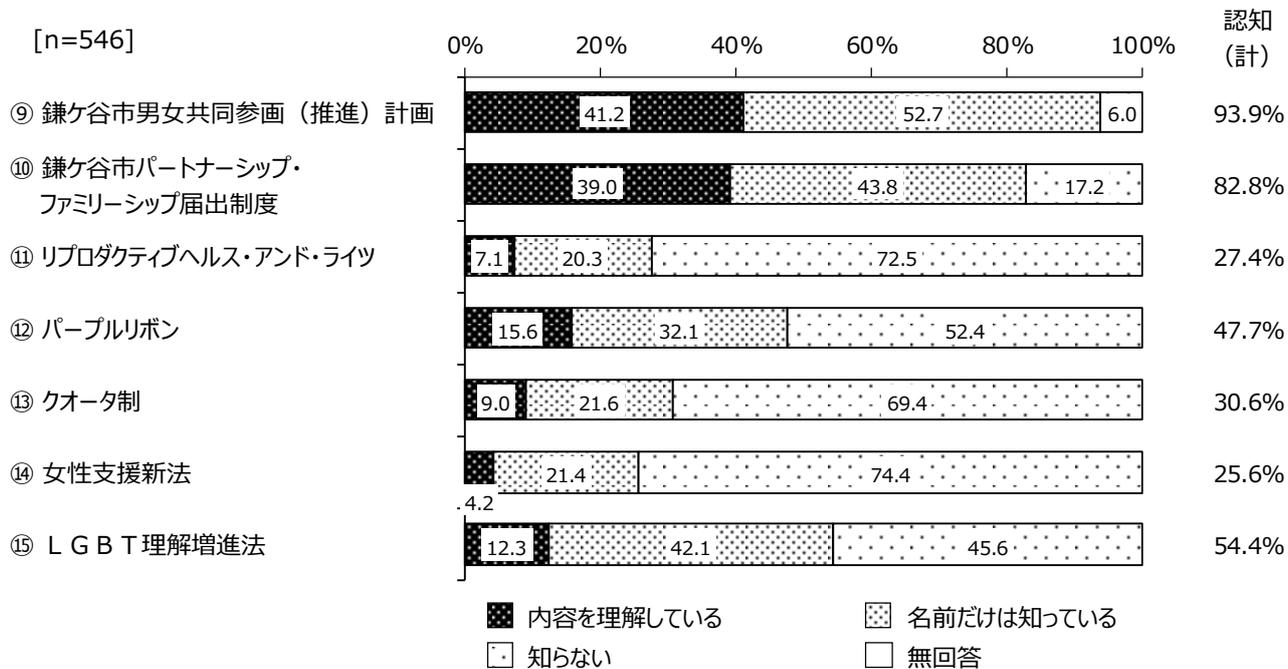
- 「男は仕事、女は家庭」という考え方については、前回に比べ「そう思わない（計）」（61.7%）が7.6ポイント高くなっている。
- 性別にみると、「そう思わない（計）」は女性（63.5%）が男性（60.5%）より3.0ポイント高くなっている。



### 2 男女共同参画に関連した言葉の認知度

- 『DV：ドメスティック・バイオレンス』、『ワーク・ライフ・バランス』、『ジェンダー』、『LGBTQ+』の4項目は「内容を理解している」が7割を超え、理解度が高くなっている。一方、『女性支援新法』、『リプロダクティブヘルス・アンド・ライツ』、『クオータ制』、『パープルリボン』の4項目は「知らない」が5割を超えている。





**令和7年度 男女共同参画に関する市職員アンケート調査報告書 概要版**  
**鎌ヶ谷市 市民生活部 市民活動推進課 男女共同参画室**  
**〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷二丁目6番1号**